

世の中が平穩に治まっている時は、道徳的に正しい言動をもって事に当たれ。奸賊（底知れぬ悪人）になつてはならない。この世の誰もが陥りそうな有害な誘惑に対しても、これを退けることができこそ武士である。ましてや、自分が奸賊となつて、世間の人々の害悪に成るなどは論外である。兵法の流派は大きく分けて四種あり、その学ぶことは端々に分かれて多いようだが、本当に重要なことは、敵に勝つことと、それにより大治を行うことなのである。敵に勝つために学ぶことは何か。それは正成が生涯秘密にしておくところの「己陣一法」のことである。（これは教えられない）大治とは何であるかについて述べよう。上下が和し、諸人がうれしそうに喜び、楽しいことをなにも施されずとも楽しみ、賞をなにも与えられなくとも満足し、国と人々が親睦して、上の者は恩恵を与え、下の者は果たすべき任務をしっかりと尽くし、その君主を尊ぶことは靈神が在するようであり、懐かしむことは父母の如くであり、罰すれども怨まず、狎（な）れていても侮らず、洋々悠々と徳化が下に流れていく、これこそが治まっている世の中（大治）の効果である。人が私に親しむことがなければ、何故に親しまないのかということを理性的に判断して、下の者が警戒心を持たずに近づき親しむための方策を思案せよ。ただし、あまりにも人を親しくさせようとすると、媚びへつらうことになり見苦しいものである。全てにおいて我が心を誠にして、自然の温和を冀（こいねが）うことが重要である。珍しくないことではあるが、天の時や地の利といえども、人の和に勝るものではない。さて、ここで一つ質問しよう。貴殿が百万人の軍師となつて、優れた武器・装備をもつて固めとし、その「智」は五台の車に積むほどの書を暗誦していて、しかも「勇」と「謀」を兼ね備えたとしても、人の「和」が無い場合には何ができるだろうか。この道はあらゆる戦乱に勝ち、しかも人を自分の思うように動かせることを旨とするものである。そうは言えども、人を侮ることだけは堅くこれを禁ずる。口伝。